

事務事業評価シート

(評価対象年度：平成 30 年度)

1. 基本的事項【PLAN】

①事務事業名		青少年の森管理運営事業				②事業番号		7616			
③事業類型		3. 政策推進事業		④開始年度		昭和 53 年度		⑤終了予定年度		年度 ○ 設定なし	
⑥根拠法令等		法令 ○ 条例 ○ 規則		要綱		計画等		その他		法令等の名称	
⑦実施手法		○ 直営		全部委託		一部委託		補助・負担		その他	
⑧関連予算科目コード		款		9		項		5		目	
⑨担当部名		教育部		⑩担当課名		生涯学習課		細目		1	
								会計		一般会計	

2. 事務事業の現状把握【DO】

〔1〕事務事業の目的・事業内容

(1)対象(誰、何に対して事業を行うのか)		対象指標(対象者数を表す指標)		単位	
① 市民		① 人口		人	
②		②			
(2)事業内容(具体的な事務事業の内容、どのような方法で実施しているか)		活動指標(活動の量を表す指標)		単位	
年間をとおしてキャンプ及びその他レクリエーションを行う場として貸付けを行っている。 利用開始 5日前までに生涯学習課にて受付し許可書を発行している。		① 利用件数		件	
		②			
		③			
(3)意図(対象をどのような状態にしたいか、何をねらっているのか)		成果指標(意図の達成度を表す指標)		単位	
青少年が自然に親しみ、たくましい身体及び精神力を養い、規律ある生活体験、集団活動の中で、団体、愛情、組織の必要性を体得することにより、健全な青少年の育成をはかっている。		① 安全に利用した利用者の割合		%	
		計算式		安全に利用した利用者数/全利用者数	
		② 利用者数		人	
		計算式			
		③			
		計算式			
(4)結果(対象を意図する状態にすることで、何に結びつくか。上位施策との関連)		総合計画体系上の位置付け			
自然体験学習ができる環境の充実及び場所の提供ができる。		政策(章) 1 すべての人が尊ばれ、その個性が発揮できるまち			
		施策大(節) 4 だれもが、いつでもどこでも学べる生涯学習推進のまちをめざします			
		施策中 2 生涯学習内容の充実			
		施策小 1 活動・発表・交流の場と機会の提供			

〔2〕各種指標値、事業費の推移

	指標名	単位	H28実績	H29実績	H30実績	R1見込	R2目標	
対象指標①	人口	人	63,125	62,549	61,984	—	—	指標値の推移における 特殊要因などの説明
対象指標②								
活動指標①	利用件数	件	55	57	58	60	60	
活動指標②								—
活動指標③								
成果指標①	安全に利用した利用者の割合	%	100	100	100	100	—	
成果指標②	利用者数	人	1,676	2,159	2,727	2,000	3,000	事業費などの推移における 特殊要因などの説明
成果指標③								
事業費	投入人員	人	0.23	0.16	0.20	0.20		
	任期付職員	人	0.00	0.00	0.00	0.00		
	臨時職員	人	0.00	0.00	0.00	0.00		
	事業費	千円	1,847	1,285	1,621	1,621		—
	直接事業費	千円	2,605	2,529	2,504	2,629		
	総事業費	千円	4,057	4,158	4,125	4,250		
財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0		—
	府支出金	千円	0	0	0	0		
	受益者負担金	千円	171	240	265	360		
	その他特定財源	千円	0	0	0	0		
	一般財源	千円	3,886	3,918	3,860	3,890		

〔3〕事務事業開始の経緯、状況の変化、評価結果への対応

①この事業を開始したきっかけは何か。	青少年の森は健全なキャンプ及びその他レクリエーションを行う個人又は団体 が利用でき、野外活動を通じ心身ともに健全な青少年育成のため自然生活体験 の場として設置された。
②開始から現在までこの事務事業を取り巻く状況は、どのように 変化したか。また、今後どのように変化していくと考えられるか。	自然体験やキャンプなどの貴重な体験ができることもあり、会社等の研修にも 利用されつつある。
③前年度の評価結果を受けて行った改革・改善の取組はあるか。	—

3. 事務事業の評価【CHECK】

[1]目的妥当性(必要性)			A.高い	B.やや高い	C.やや低い	D.低い	[1]の評価	A
評価項目		評価及び理由・説明等						
①事務事業の意図すること(目的)は、上位施策(施策小)の達成に貢献しますか。		ア. する イ. ある程度 ウ. しない	青少年の森を運営していくことは貴重な体験学習の場を提供することができるとともに交流の場としての機会を広げることにつながる。					
②税金を使って達成する目的ですか。 (市が関与する必要がありますか、市民(特に納税者)の納得が得られますか。民間に類似サービスはありませんか。)		ア. はい イ. ある程度 ウ. いいえ	青少年教育を目的とした施設であることと民間ではなかなか請負いできる場所がないことから市が運営することは妥当である。					
③対象範囲、単価、事業費規模は市民のニーズや社会環境に合っていますか。 (他団体と比較してどうですか。)		ア. 合っている イ. ある程度 ウ. いない	青少年教育に対する運営のため対象範囲や社会環境に適している。					
④事務事業を休止・廃止した場合、市民生活(あるいは上位施策)への影響はありますか、ある場合それは大きいですか。		ア. 影響がある イ. ある程度 ウ. ない	貴重な体験学習の場がなくなってしまう。					

[2]有効性			A.高い	B.やや高い	C.やや低い	D.低い	[2]の評価	A
⑤期待どおりの成果が得られていますか。		ア. 得られている イ. ある程度 ウ. いない	さまざまな団体、グループが利用している。					
⑥今後事務事業を工夫することで成果向上の余地はありませんか。 (事務事業の成果指標をさらに伸ばすことができませんか。)		ア. ある イ. ない	青少年の森のPRを行うことで利用者の増加をはかる。					
⑦庁内の他部署で、類似の目的を持つ事務事業はありませんか、それらと統廃合や連携を行うことで、より成果を向上できませんか。		ア. 類似なし イ. できる ウ. できない	わいわい村との連携や今後整備されるりんくう公園キャンプ場の開設後に方向性を検討する。					

[3]効率性			A.高い	B.やや高い	C.やや低い	D.低い	[3]の評価	A
⑧成果を下げずに事業を工夫してコスト(直接事業費+人件費)を削減する手法はありませんか。 (業務改善、業務の委託化、委託業務内容の見直し、IT化などはできませんか。)		ア. ある イ. ない	限られた財源の中で、運営しておりNPO法人協力のもと、低コストを心がけておりこれ以上の削減は運営が厳しいものとなる。					
⑨受益者負担の適正化余地はありませんか。 (歳入確保はできませんか。)		ア. ある イ. ない	PRを積極的に行い、利用件数を増やすことで歳入増加が見込める。					

4. 総合評価

総合評価	評価(A~D)	個別評価の結果を踏まえて課題等を整理	A:現状のまま事業を進めることが適当
	C	利用者増に向けたPRを積極的に行うとともに、事業の連携やりんくう公園キャンプ場の開設後に廃止を含め検討する。	B:事業の進め方に改善が必要 C:事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D:事業の統合、休止・廃止の検討が必要

5. 改革、改善案【ACTION】

＜今後の方向性＞	
イ	ア. 現状のまま継続 イ. 見直しのうえで継続 ウ. 終了 エ. 休止 オ. 廃止 ↓ (年まで) (年から) (年から)
b	＜今後の展開方針＞ a. 重点化する(集中的なコスト投入) b. 手段を改善する(実施主体や実施手段を変える) c. 効率化する(コストを下げる) d. 簡素化する(規模を縮小する) e. 統合する(他の事務事業と統合する)
①改革、改善の具体案、実施年度など	近年、市外在住者で日帰りの利用者が多くなったため、令和元年度より使用料の改定し、適切な受益者負担を行うようにする。
②改革・改善を実現するうえで、解決すべき課題及び考えられるその解決策	—